



# 会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

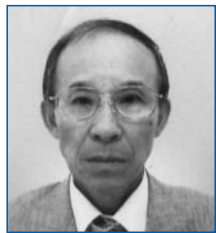
〒692-0064  
島根県安来市古川町534  
TEL 0854-28-9988  
FAX 0854-28-9393  
http://www.y-hozon.com/  
E-mail:admin@y-hozon.com

## — 大師範 (12名) —

- 唄 岩佐光恵 (本部道場)
- 絃 杠 繁 (出雲)
- 鼓 錦織文夫 (宍道)
- 唄 吉岡恵子 (大社)
- 唄 難波 栄 (大東)
- 唄 長原ミチコ (浜田中央)
- 唄 山根哲朗 (益田)
- 唄 岩川信子 (益田)
- 唄 佐藤武三郎 (松江)
- 絃 田中輝夫 (松江)
- 絃 松本 修 (境港東)
- 唄 若岑 礼 (関東)

(代議員会資料名簿順)

## — 准名人 (5名) —



二代目 松尾英興  
唄の部 (松江)



富田とみお  
絃の部 (仁多)



中尾俊介  
唄の部 (湖陵)



濱崎正人  
鼓の部 (静岡)



古本明美  
唄の部 (津ノ井)

## 上位昇格者

11月11日に開催された安来節保存会代議員会において、平成23年度の上位昇格者と表彰者が報告されました。  
今回、准名人に5名、大師範に12名の方が昇格されました。おめでとうございます。  
来年度の1月10日の唄い初め会において、免状・表彰状の授与と昇格披露を行います。

## 会員表彰者

(四十三名)

- 永田美由紀 (本部道場)
- 角 雅宏 (本部道場)
- 竹下英治 (出雲)
- 坂根富二子 (石見)
- 山根正司 (大田)
- 陶山朋之 (加茂)
- 小村 勲 (神門)
- 永田恵吉 (湖陵)
- 大国秀文 (湖陵)
- 古澤三男 (宍道)
- 木建節子 (大社)
- 安田 清 (大社)
- 巻 和子 (那賀)
- 沖野チヨノ (那賀)
- 藤原由成 (仁多)
- 迫山クニ子 (浜田)
- 東 良女 (浜田中央)
- 鬼村栄子 (斐川)
- 荒木喜代子 (平田)
- 水尻敏子 (益田)
- 井上美紀子 (松江)
- 経種保雄 (松江)
- 江田紀美子 (瑞穂)
- 大泉志津子 (尾高)
- 三村 戈子 (境港東)
- 永田恵洋 (津ノ井)
- 高野慎二 (東伯)
- 米田靖共 (東伯)
- 瀧村洋司 (鳥取)
- 小西邦明 (法勝寺)
- 長谷川徳子 (米子)
- 西村秋恵 (米子中)
- 楠部勝海 (江島巖)
- 池田ミズエ (広島西)
- 馬場明美 (広島東)
- 吉田文子 (広島南)
- 山崎暢子 (備北)
- 荒木艶子 (岡山)
- 山辺保男 (岡山)
- 中井一代 (関西)
- 安宅千恵子 (関西)
- 藤堂勢津子 (関西)
- 児島正博 (伊予道後)

(代議員会資料名簿順)

## 中国歴訪の旅情ひとしお

— 大観・米華両画伯来松 —

並河健蔵

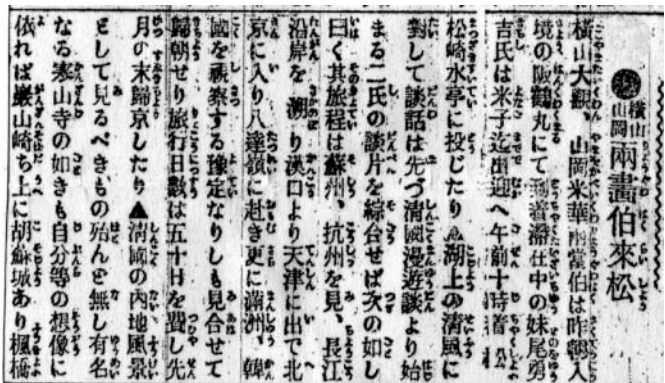
かの有名な横山大観と山岡米華という二人の画伯が、山陰の地に来遊し、松江・境・安来に逗留したのは、今から丁度一〇〇年前の明治四十三年の夏のことであった。

大観・米華の両画伯は、東京・上野精養軒の支配人で妹尾勇吉氏(仁多郡奥出雲町の出身)や松江市の日本画家・和田翠雲氏らの招きに応じて、まず松江の安道湖畔にあった松崎水亭(現・玉造温泉・松の湯)に滞在した。同年八月二十一日付の松陽新聞(現・山陰中央新報の前身の一つ)は、「横山・山岡両画伯来松」と題してインタビューの様を、大要次の通り報じている。

「昨朝、入境の阪鶴丸に到着。午前十時着松、松崎水亭に投じたり。湖上の清風に対して、談話は先づ清国漫遊談より始まる……」と書き始めている。取材記者にしてみれば、まずは安道湖の風情について尋ねたいところであったろうが、来松までに中国を歴訪したことが、強く印象に残っていたものであろう。

その旅程は蘇州・杭州を見て長江沿岸を廻り、漢口より天津に出て北京に入った。(中略)旅行日数は五十日を費して先月帰京したところだ。▲清国の風景は見るものは殆ど無い。有名な寒山寺(注・唐時代の僧・寒山が草庵を結んだのが起源)は、想像するところ險しい山がそばに、その上に胡蘇城があり、余程詩的な境地と思つたが、実際は茫々たる平蕪の地であつた。▲寒山寺には牛蒡が数尺以上に

も伸びて花が咲いていたので、取り敢えず写生帳に収めた。  
▲よく絵になる牧童の図などは長江沿岸の至る所にあり、牛はすべて水牛である。▲松江の大橋川位の川幅に網を漬けて、舟が来れば一方の網を引き上げるなど奇観である。多く捕れることもあれば、一日に一尾しか捕れないこともある。香気千萬で暑を避ける予定であつたが一緒に来松することになった。▲大観・米華の両画伯の滞在は約二週間の見込みである。本年十月十五日より開催の文部省美術展覧会の出品の画題は清国所見のものなのである。もし松江での滞在が長引けば当地で製作に取り掛かる都合でもある……と記している。



明治43年8月21日付 松陽新聞の記事

参考のために両画伯の略歴を『近代日本美術事典』(講談社刊)で記す。  
山岡米華・明治元年(一八六八)高知県土佐に出生。十九歳で東京。裁判所の書記をつとめながら大審院判事であつた川村雨谷に南画を学ぶ。中国に遊び明清諸家を研究。同四十年東京勸業博覧会で「秋山閑居」が一等賞を受ける。同年開設の文展で正派同志会を結成し幹事となる。翌四十一年第二回文展より審査員をつとめる。筆力気韻に富み、将来を囑望されたが、大正三年(一九一四)死去。  
横山大観・明治元年(一八六八)茨城県水戸に出生。同二十六年東京美術学校を卒業。同三十一年日本美術院の設立に参加。その主軸として活躍した。同三十五年、大胆な没線描写による革新的な試みが朦朧体と酷評される。終生岡倉天心の理想を信奉し、明治・大正・昭和の三代にわたって革新的な日本画の改革運動を推進した。昭和三十三年、九十歳で死去。安来市の足立美術館に多くの作品が所蔵されている。  
この中国歴訪の旅は、新聞記事による単なる「清国漫遊談」どころか、横山大観にとつて、水墨表現にあらたな可能性を追求するエポックメイキングでもあつた。  
今回は横山大観が安来町の原本邸に三泊四日の日程で滞在し、安来節を存分に聞き、惚れこんだという事情を紹介したいと思ふ。





指導部員  
出雲啓之助

私が安来節を始めたのが、銭太鼓からでした。平行して唄を習い、昭和四十六年に大東支部に入り、初めての審査は松江市で、唄を受けて二級からのスタートでした。その年の優勝大会で二級・唄の部で二位になりました。それから毎年審査を受けて来ましたが、四十八年には初段、准師範と一年に二回審査を受けた事もありました。それまでは、同じ自治会の方と三人で海潮道場で練習をしていましたが、途中で二人は家庭の都合で保存会を辞められ、自分も辞めようと思った事もありました。その頃、大東の方からたたくさんの方が海潮道場に来て、練習されており、それにつられて続けてきました。おふくろは口癖で「芸は身を助ける」とよく言っておりました。安来節の歌詞に「私の生まれは 出雲の生まれ 下手も自慢の安来節」とありますが、今では続けてきて良かったと思います。唄だけではなく鼓、踊りとやり始め、途中から踊りにはまり込みました。どじょう掬いも簡単になっていきましたが、あまりにも奥の深い事にびっくりしています。今日、大東の踊りが皆様に注目されていますが、今まで教えて頂いた諸先生をはじめ、三代目出雲愛之助先生のおかげです。今までに優勝大会で大東支部の踊りの人も現在では、全員クラスは違いますが、えど入賞、優勝しています。これは誇りに思っています。踊りは他の種目とは別の日に練習を行い、審査前などは毎週木曜日で、お互いに指摘し合いながら練習しています。また、今年からは指導部として、踊りの方を師範研修会で担当してきましたが、基本である歩き、腰の高さが出来ていない方が多くおられました。来年の師範昇格審査の踊りは唄三本となりますので、地方の方も踊られる方も大変になると思います。

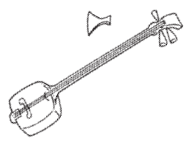
# 私と安来節



指導部員  
富田 英好

国道五十四号の頓原町と掛合町境界に位置する雪の名所で知られる恩谷、神戸川水系と斐伊川水系の源で生まれ育ちました。祖父からの話では旅籠で街道の人が泊まりをしていたと、幼い頃でも実家には胴に墨で明治五年と書かれている紅木三味線があり、幼い時から山の神さん、秋葉さんと祭り事には三味線と尺八太鼓で集落の皆さんが賑やかにされている姿が思い浮かびます。

安来節に一層拍車を掛けたのは昭和五十一年一月三日のテレビ番組（民謡でおめでとう）に感動し、安来節の三味線に興味が出て来ました。早速実家に行き、破れた三味線を借り、出雲の三味線屋で皮を張り替え、「一万円です」と言われてビックリしました。また、紅木三味線が普通車よりも値段が高いくらいで、高い事にもビックリでした。



家族と私と安来節

安来節との出会いは、主人が職場のクラブ活動で安来節をしていた関係で、気がついて自分も何となく入り込んでいたという感じでした。銭太鼓、鼓、唄と先生方の指導を受け、自分なりの楽しさを感じ、少し自信もつきはじめた頃、突然の娘の死・・・嘘であってほしい・・・、嘘でも願いました。

日が経つにつれ、自分を見失い周りに迷惑を掛け、どこへ向かっていいのかわからず、そんな私を主人や娘達が、言葉には出さなかつたけど外に出るようにしむけてくれました。

た。それは今も続いており、笑顔で送り出してくれます。三味線と踊りは少し遅れて習い始めました。現在は銭太鼓もたたくさんの仲間と「足が痛い、腰が痛い」と言いながら楽しんでいきます。

はからずも、平成十四年に鼓と踊りのダブル優勝した時は、みんなが喜んでくれました。「お母ちゃん、銭太鼓や鼓を打っている時が一番いい顔しているね」と言った十九歳でこの世を去った、娘の和子も天国できつと喜んでくれているのだろうと、手を合わせて喜びを噛み締めました。思えばこの娘のこの言葉にずっと背中を押されてきた私です。幸せな事に孫達もついて来てくれてます。これからは諸先生方に指導を受けた事を後進に伝えて行く事が私の仕事ではないかと思っております。微力ながら頑張ります。



指導部員  
周 藤 伏 子

加茂支部に昭和五十一年三月に入会し、先輩の皆さんに教わりながら、富田英男（小玉英男）さんの導きで、昭和五十三年に故 絃名人三代目富田徳之助先生に教わる事になりました。板間に正座して足が痺れ、帰る時に歩く事が出来なかつた事は今でも忘れません。以来、徳之助先生に安来節の三味線を教わるつもりが、先生は安来節の三味線では無く、一下がり調子のすくい撥の曲、出囃子、二上がり、しげさい節、五本松節など目にもとまらぬ早業とその三味線の音色に感動しつつも私の脳と左右の手がついていけず、足も痺れての三十分間で安来節は一分で終わりでした。帰る途中に車を停めて後部座席で三味線を弾いていたら、パトカーが来て警察官に職務質問を何回かされたのが今では笑い話です。

初心を忘れる事無く、諸先輩、皆様方のご指導の賜と深く感謝を致しております。これからも一層、安来節発展に務めていきたいと思っております。

**(有)仁木三味線**  
 製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓  
 〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1  
 TEL 045(713) 4319 FAX 045(741) 4796  
 HP <http://www.syamisen.com/>

**大小鼓製造卸販売**  
**杉本 鼓 店**  
 住 所：島根県松江市馬潟町360-13  
 電話・FAX：0852-37-2033  
 E-mail：ks36013@web-sanin.co.jp  
 ※通信販売も致しますので、お気軽にお電話ください。  
 修理、下取りもご相談ください。



# ひびけ歌声世界の空へ

支 部 情 報

## 日本新舞踊民謡舞踊 芸能大会(宮城県仙台市) 二十周年記念大会へ銭太鼓 (東京音頭)で参加!



東京支部  
石毛弘子

平成二十二年二月二十七日・二十八日の両日開かれた大会へ参加しました。二十七日は部門別で、金賞・銀賞・銅賞が競われました。民謡舞踊も他の歌謡舞踊と同じく年齢別・個人別・団体別と分かれ、熱戦を繰り広げました。流石宮城県などの東北民謡舞踊が多かった。ソーラン節、山形大黒舞、米節、さんさ時雨等で私達の演目「銭太鼓(東京音頭)」は、場違いな感じで見られたのではないかと心配もしました。しかしここまで来た以上、狙に乗った気持ちで精一杯、演じようと出演者一同、心に決め、直前まで練習を重ねました。また入退場も審査対象で、音響、照明、進行の担当スタッフとも打ち合わせし、全員落ち着いて舞台を終了する事ができ、会場から大きな拍手を頂きました。

結果、民謡舞踊団体の部で金賞を頂く事が出来ました。これは銭太鼓が初めて仙台の舞台で披露され、珍しかった事、さらにこの二十周年記念ゲストに安来節が設定され、安来節保存会として棚橋東京支部長が踊られたのが大きかったと思います、感謝している所です。



## 広島テレビ局 取材と放映



宮島支部  
土江正信

去る五月二十四日、広島の中国放送「夕方ニュース6」にて、当支部の活動状況の放映がありました。

当支部も設立十九年となりますが、地道な稽古及び施設等でのボランティア出演程度で、公共電波に載せてPRなんて恐らく皆無であったと思います。ある所から、収録放映の打診要請があり、少し戸惑いもありましたが、せっかくのチャンスを生かそうという事になりました。TV番組表には当日



安来節は生活の唄 仕事の唄

のニュース6のメインとして扱われ「どじょうすくい唄りの奥深さ」として4分間放映されました。

懐かしさのあまり本部事務局に所在を問い合わせ、映った会員の在籍支部と名前を聞き出し、三十数年振りの電話に花が咲いた方もおられました。

当支部会員も稽古がてら励みにもなり、視聴された方々に安来節の良さ、踊りのユーモラスさが少しでも伝わったのであれば幸いです。



どじょうすくいととったときの喜びの表情

## 映画「ゲゲゲの女房」 「火垂るの墓」に 関わって



東京支部長  
棚橋 保

私は、表題二本の映画に「安来節」で関わる貴重な体験をさせて頂いた。以下「安来節」が映画の中でどんな役割を果たしたかについて書いてみたい。

まず「火垂るの墓」は言うまで

も無く、野坂昭如氏の直木賞受賞作であり、実写映画化されたものである。

一、病身の母(松田聖子役)と妹・節子を慰め、励ます場面で、唄名人上代安夫、絃名人二代目渡部音吉両先生のリズムに乗り踊り、映画評論家が解説で秀逸な場面であると誉めて頂いた。

二、主人公を可愛がってくれた校長先生が校長室に飾ってあった「真影」を紛失したとし、家族全員自害してしまい、主人公の清太があまりの悲しさに近くにある汚れたザルを手に安来節を踊ってしまう。その事によって逆説的に悲しみの深さを表したといえる。

「ゲゲゲの女房」ではどうだったか。どん底の貧乏生活の時に、あまりの所得の低さに税務署の職員が所得調査に来た時、「お前達に貧乏人の生活がわかるか」と分厚い質札の束を投げつけ、税務署の職員が慌てて帰った後、夫婦して「安来節」を思わず唄う、何とも胸に迫る感動シーンである。

「火垂るの墓」は現地ロケーションに入る一ヶ月前、「ゲゲゲの女房」では吹石一恵さんに安来節の唄を俳優さんには踊り、特に歩き方、やはり短時間であった。どちらも映画の質を高める役割を安来節が果たしたと思っている。

## 平成23年新春民謡ショー

主催/財団法人日本民謡協会  
開催日時/平成23年1月22日(土)  
10:30~18:30  
場所/メルパルクホール  
(東京郵便貯金ホール)  
入場券/1枚につき3,150円

申込み(問合せ)先  
財団法人日本民謡協会  
安来節保存会関東地区  
安来節関東連合会関東支部  
安来節保存会関東支部 浅草事務局  
〒111-0032  
東京都台東区浅草1丁目18-3 遠藤ビル3F  
TEL・FAX 03-3847-0215

創立60周年記念大会  
未来へつなごう民謡民舞

武田孝男 斉藤和彦 土屋洋治 服部幹男 大島ヨシ子 吉川芳美 新沼美智代 新井悦子 泉 潤三 吉川昭伸

平成22年6月27日 於 NHKホール  
踊り手 安来節保存会関東支部社中



# 会員の声コーナー

## 安来節は

### 私の古里



山口支部  
竹添 繁

私は島根県石見町矢上に生まれ育ちました。第二次大戦終戦の年が小学校五年生でした。戦後、松江放送でしたか山陰放送でしたか、はっきり憶えておりませんが、夕方になるとラジオから「安来節の時間です」と、唄と三味線が流れておりました。私は子供なりに、そのリズムとメロディーに何か温かいものを感じて楽しみに聞いておりました。

高校を卒業後、山口県宇部市に就職しました。それから十数年後、ふとした事から宇部市に安来節保存会がある事を知り、早速入会すると、若いのが入って来たという事で、皆さんが厳しく、一生懸命教えてくれました。お陰で少しずつ上達する事が出来ました。その頃本場から野坂亮利・三代目出雲愛之助・出雲正之助各先生が来宇され、本場の唄を聞き、直接指導を受ける事ができ、益々安来節の魅力に引かれて行く事になりました。しかし、丁度面白くて仕方がないその時期に仕事の都合で転勤が始まり、練習会にも参加出来なくなり、やむを得ず休会する事に致しました。

定年退職後、再スタートしようとしたが、宇部支部は解散しており、途方に暮れました。そんな時、地方新聞に山口支部の総会についての記事があり、その総会を見学に行き、その場で早速入会させていただきました。私の教室の先生は齊藤弘子大師範です。厳しさの中にも心優しい指導と親切な仲間に出会えて楽しく頑張っております。

私の故郷にも石見支部があり、四年毎に開催される同窓会では必ず安来節で盛り上げられます。私にとって安来節は、暖かくぬくもりを感じる古里です。これからも生涯唄い続けたいと思っております。



## 訃報

絃名人 二代目渡部音吉さん（七十九歳）が平成二十二年十一月二十一日逝去されました。

昭和二十四年に安来節保存会に入会され今日まで指導部員・資格審査員を歴任され安来節保存会に多大なご功績を残されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

## 安来節保存会会員特典！

次の施設で安来節保存会会員証をご提示されますと次の特典が受けられます。

- ・足立美術館入館料 2,200円が2,000円
- ・安来節演芸館観賞料 半額

## 東京支部設立15周年記念

### 韓国・国際親善交流の旅

近くて遠い韓国から  
近くて近い韓国へ

- とき 2011年3月28日～31日の4日間
- 費用 予定10万円前後（燃油サーチャージ等含まず）  
舞踊交流関係費含む・添乗員同行
- 交流先 韓国・南海島農楽団（農民舞踊）と  
フサン農民舞踊団の2大交流
- ホテル フサン2泊 5ツ星ホテル  
南海島1泊 民宿、  
又はスタンダードホテル
- 企画・主催 安来節保存会東京支部  
TEL03-3361-0488 担当 棚橋 保



韓国南海島の棚田  
(イメージ写真)

## 指導して下さった 先生方に感謝



広島中支部  
安葉 春枝

民謡には全く興味が無かった私が、知り合いの強引な誘いに仕方なく習い始めたのが、今から二十年前の事です。そんな目で、あまり練習もしない不真面目な生徒にもかかわらず、今は亡き宮島支部の酒井フミエ先生が一生懸命教えて下さり、平成

六年の山陽地区大会の初段・絃の部で優勝したのをきっかけに少しは自分にも素質があるのかしらと自惚れて、やる気が出て来たのはこの頃からです。それからは火がついたように車で往復八時間かけてひたすら山陰路に安来節の本場の先生の指導を受けに通い始めました。唄も最初は蚊が泣く様な声で唄っていたので、「四畳半で唄うのならそれでいいが」と笑われ、どうしたらお腹から声が出るのか悩んだ時期もありましたが、親切な先生方の指導で唄、絃とも同時に師範に昇格した時は、飛び上がりた程の嬉しさで、あの時の幸せな気持ちは今でも

忘れません。私に関わって下さった先生方、本当に有難うございました。これからは恩返しのもりで安来節の普及に少しでも力になればと近くの公民館で近所の人や高校生、我が家の孫達と一緒に楽しく練習しています。五年生の孫も今年の全国優勝大会の初段・絃の部に初出場させてもらって、とても良い経験になったようです。これからも安来節に更に精進して参りたいと思います。また、安来節を通して多くの皆様との出会いを与えて下さった事に心から感謝しています。

## 事務局からのお知らせ

平成23年1月～2月にかけて、師範以上の方を対象に部門別の講習会を開催致します。

参加につきましては、当日参加も可能ではありますが、人数の把握の為、事前に所属支部を通してお申し込みください。何回でも受講出来ます。

なお、日程等につきましては下記の通りです。

### 記

- ・参加資格：師範以上
- ・参加料：1,000円（1回）
- ・時間：午前10:00～午後3:00
- ・会場：安来節演芸館 2F

### 部門別講習会日程表

#### 平成23年 1月

| 日    | 月  | 火    | 水  | 木    | 金  | 土    |
|------|----|------|----|------|----|------|
|      |    |      |    |      |    | 1    |
| 2    | 3  | 4    | 5  | 6    | 7  | 8    |
| 9    | 10 | 11   | 12 | 13   | 14 | 15   |
| 16   | 17 | 18 鼓 | 19 | 20   | 21 | 22 銭 |
| 23 唄 | 24 | 25   | 26 | 27 踊 | 28 | 29   |
| 30   | 31 |      |    |      |    |      |

#### 2月

| 日    | 月  | 火   | 水  | 木    | 金  | 土   |
|------|----|-----|----|------|----|-----|
|      |    | 1 絃 | 2  | 3    | 4  | 5 鼓 |
| 6 踊  | 7  | 8   | 9  | 10 唄 | 11 | 12  |
| 13 絃 | 14 | 15  | 16 | 17 銭 | 18 | 19  |
| 20   | 21 | 22  | 23 | 24   | 25 | 26  |
| 27   | 28 |     |    |      |    |     |